

# すすんで表現し、生き生きと行動する子

出 脇 典 子

## はじめに

発音がはっきりしないために、コミュニケーションがうまくいかないS男は、明るさに欠け、友だちと協力したり、一緒に遊んだりすることが少なかった。また常に賞賛を求め、ほめられることで意欲を持続させるという、他律的な傾向が強かった。こうしたS男が、遊びの労働を中心とする生活単元学習に、得意とするからだを動かすことや、特に道具を使うことを生かして参加し、自信を得て意欲的にいろいろな活動に取り組むようになった経過を述べてみたい。

## 1. プロフィール

### (1) 生育歴

- 昭和52年1月1日生 12才10か月 中学部1年生 男子
- 言語障害 脳性小児マヒ後遺症
- 3年保育の後、公立小（心身障害児学級）より本校小学部6年に編入、現在に至る。保育所、小学校低学年時代に4年間ことばの指導を受ける。
- 家族は両親、祖父母、兄、弟の7人。両親とも内向的で、家庭内が暗くなりがちである。

### (2) 諸検査等による実態

- 知能検査 IQ 44（田研、田中ビネー）
- 発達検査等

p. 52で示す津守式乳幼児発達検査では、Aタイプで全般に6～7歳の発達を示し、図1のMEPAでもほぼ7ステージ（6歳）に達している。いずれも運動が高くと言語が低く、内容を分析すると調整力に劣っている。p. 53に示すからだの輪郭表では、運動や道具の操作で11～12歳に達するものもあり、調整力の弱さを生活経験でカバーしていることがわかる。

### (3) 行動特性

- 走ることやボール運動など、粗大運動は得意だが、ケンパーや指遊びなど調整力を必要とするもの、水泳の息つきなどは苦手である。
- ねこ車やのこなどの、道具を扱うことを好むが、巧緻性には劣り、箸の持ち方等ぎこちない。
- 発音が不明瞭でうまく伝わらず、あきらめたり相手に妥協したりすることがある。
- 自分のしたことについて賞賛を求め、それによってやる気を持続させる。
- 友だちへのかかわり方がまずく、いじめととられることもある。

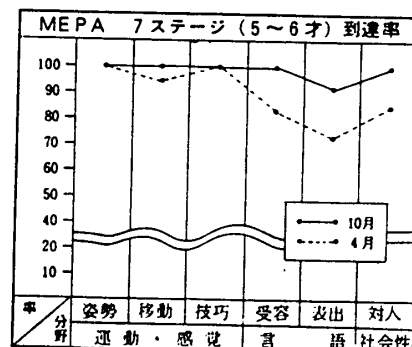
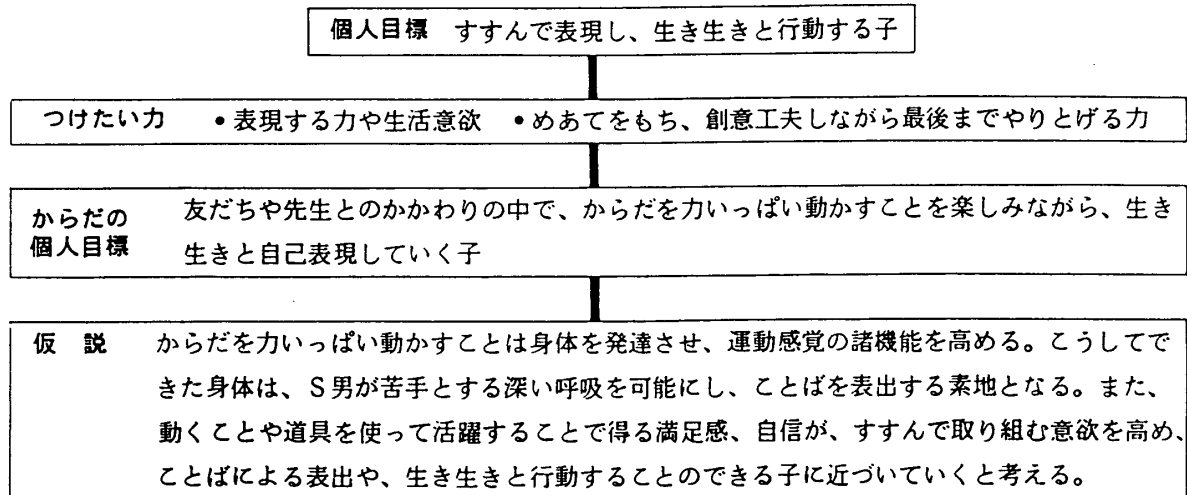


図1 MEPA得点プロフィール

## 2. 取り組みの構想

### (1) 指導仮説

上記の実態からS男が、いろいろな活動にすすんで取り組み、自分なりに見通しをもって生き生きと自己表現する姿をめざし、仮説を次のように設定した。



### (2) 指導方針

生活単元学習や作業学習（農園）を中心に、S男が得意とするからだを使うことや、道具の操作などの活動を、できるだけ生かしていく。その活動によって高まる意欲により、苦手なことばでの表出をカバーしたり、今できていないことをできるようにしていきたい。

抽出養訓を中心に、肺の発達を促すための機能訓練を継続して行う。それにより深い大きな呼吸のしかたを身につけ、ふんばる力を強めたり、正しい発音に近づけたりしたい。

## 3. 指導の実際

### (1) 生活単元学習での取り組み

S男の特性から、遊び的労働を中心とする生活単元学習は、力が発揮できるかっこうの場であると考えられる。2つの単元でS男が、自分の経験や技能が学習の中で生かされる喜びを充分味わい、自信をもって意欲的に諸活動に取り組んでいく姿をめざした。

実施にあたり、①遊びや道具を使った作業的要素を学習内容として含むこと。②できる満足感や新しく獲得する充実感を味わわせること。③めあてをもたせること。④創意工夫を生かすことなどに配慮した。

#### ① 「野外炊飯」の実践

〔表1〕

主な学習内容	手だて	取り組みの様子
・野外で炊飯をしよう	・今後の学習に期待と見通しをもたせる	・ブロック運び、かまどの火たき、肉のかきませなど、すすんで手伝う。「野外で炊飯をする人」と問うと、大きな声で「はい」と答える。
・炊飯場をつくろう	・経験を生かす ・力いっぱい動かす	・かまで、どんどん草を刈り、刈った草をねこ車に積んで、うまくバランスをとって運ぶ。みんながやめても最後まで頑張った。
・まな板や椅子を作ろう	・道具の使用	・示範を見て、のこの使い方をすぐ覚えた。最初の1枚をものさしにして残りの3枚を切ったのには驚く。金づちが釘の頭に当たるが、曲がっていても力まかせに打ち込む。完成した椅子を高く掲げて見せる。
・ラーメンを作ろう	・経験を生かす ・新しい経験をさせる	・経験があり、用具の準備から調理の手順まで、よく心得て動く。火のつきやすいまきの組み方を習ってする。
・ランチマットを作ろう	・創意工夫を生かす	・フェルトを思いの形に切っていく。本人がイメージを持っているのは、その細かいフェルトの切り方でわかる。「できた」と喜んで見せる。
・野外炊飯に行こう	・経験を生かす ・新しい経験をさせる	・ブロック運びを4往復する。風でマッチの火がつかず、何度もやり直しをする。火吹き竹を初めて使い、うまく火をつける。
・反省をしよう	・自由に発表させる	・田口賞の花火を見て「宿泊学習をしよう」と、大きな声で発表する。小学部時代の経験が生きた発言で、自信に満ちている。

この単元は、S男をリーダーとして展開していった。S男の経験に基く見通しと道具を操作する力、他の生徒に比べれば力のあるからだの動きなど、S男の特性が十分に発揮され自信をもってすすんで取り組む姿を、いろいろな活動の中に認めることができた。できる喜びがことばでの表出意欲を高め、元気のよいかげ声や、何とかして気持ちを伝えようとする場面が、いくつもあった。また、役割分担や、一人ひとりが目標をもつといった取り組みをすることによって、友だちと協力する場面もみられるようになってきた。



〔まき作りに励むS男〕

こうした状態をさらに確かなものにしていきたいと考え、次の「臨海学校」にも、同じ方針で取り組んだ。

## 2 「臨海学校」

〔表2〕

主な学習内容	手だて	取り組みの様子
・臨海学校の計画をたてよう	・今後の学習に期待と見通しをもたせる	・いつ、誰が、どこにという問いには、元気よく挙手をして答える。が、経験がないため、今後の学習の見通しはほとんどもてなかった。
・砂場をつくろう	・道具の使用 ・力いっぱい動かす	・スコップでどんどん砂をすくい、ねこ車で何往復もする。R男が重くてよろけるのを助ける。手に豆ができていますが、最後まで頑張る。
・まきを作ろう	・道具の使用 ・工夫を生かす	・のこを手にするですぐ木を切る。のこがひきやすい高さを考え、あれこれやってみる。アイデアがよいとほめられ、うれしそうに笑う。
・日程表を作ろう	・経験を生かす	・視写なので、安心して次々と書く。担任が日程表に時刻を書き忘れていることに気づく大手柄。廊下に掲示するまで、段取りをして動く。
・砂でつくろう (船)	・道具の使用。 ・創意工夫を生かす ・役割分担をする	・スコップでどんどん砂を積み上げ、背面でパンパンたたいて砂を固めていく。あざやかな手つきであり、頼もしさも感じさせた。階段もつけてみる。完成した船に乗って、「パンザイ」と大きく叫ぶ。
・臨海学校に行こう	・事前の学習をできるかぎり生かす	・砂の造形では、スコップでどんどん砂をほり、バケツで何往復も海水を運んで池をつくった。ことばはなく、真剣な表情である。 ・自然の家のおみやげを渡す係をすすんで引き受け、R男と一緒に、みんなの前できちんと渡した。ことばを苦しなかった。

この単元でS男は、砂運びという粗大運動に充分かかわる満足感を味わっている。また、スコ

ップの背で、砂を固めるといった、思いもよらない道具の使い方をし、先生にほめられる充実感も味わった。これらが自信と安定を与え、手指を使った発泡スチロールの船づくりにも、じっくりと取り組んだ。また、途中で賞賛がなくてもめざす目標までは、黙々と頑張る姿が認められるようになってきた。



砂山作りに励むS男

### ③ 実践の結果

2つの単元終了後、2学期の運動会でS男は、次のような取り組みを見せた。

- 中学部縦割り2グループのキャプテンとなり、行動の遅い友だちに声かけをしたり、手を貸したりして、チームをまとめることに頑張った。
- チームの友だちに、ことばかけがはきはきとできた。「頑張ろうで」「応援してよ」「優勝しようで」等、気持ちの高まりが自然にことばになって出ていた。
- 活動の途中で賞賛を求めることはほとんどなく、それがなくても、最後まで頑張れた。

生活単元学習をベースにしたこうした意欲によって、10月実施のMEPA（図1）では、言語にかなりの向上が認められた。

### (2) 養護・訓練での取り組み

棒を使った筋力を強める運動、指先に力を入れる訓練、吐く・吸うなどの呼吸法の訓練を中心にして取り組んでいる。この訓練は痛みや緊張を伴い、かなり頑張る気力を要するものである。

4月当初に比べ目的意識や見通しに加え、心理的なたくましさで支えられ、自己コントロールしながらよく頑張っている。その背景には、生活単元学習で得た自信、やる気等が大きき力となっていることが考えられる。養訓指導者の観察では背筋力の向上がわずかながら認められるとのことである。そのことは日常行動からもうかがうことができる。

## 4. 考察と今後の課題

S男が特技を生かして、生き生きと自己表現することをめざしてきたが、生活単元学習の中でのS男は、めざす姿そのものであった。図2は、段階別教育内容のIV段階表の到達度を表わすグラフである。この図から、わずかながら職業化、社会化の広がりが見られる。

しかしS男は、まだまわりからの支えによって自己表現をしている段階である。S男がさらに目標に近づくには、この支えの代わりになることばの力、特に文字言語を取り入れ、自己コントロールの力をつけていかねばならない。

今後は、ことばの力からの取り組みにも目を向けたい。

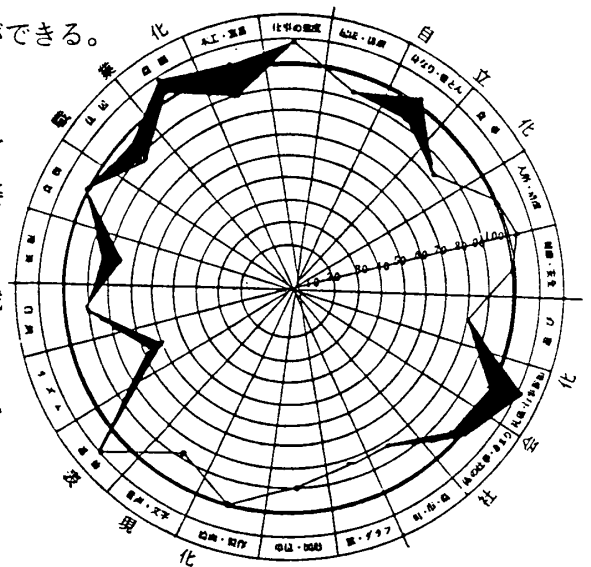


図2 段階別教育内容IV段階到達率（5月と10月）